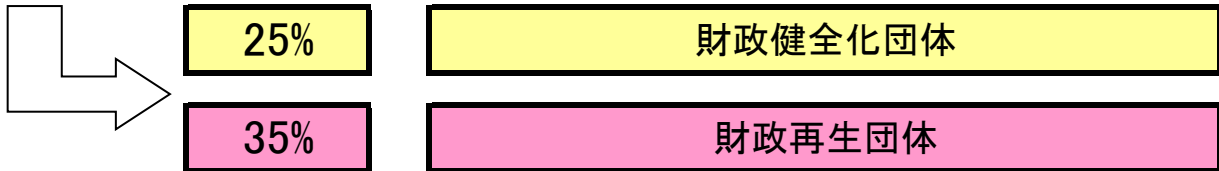


### 健全化判断指標③

# 実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金・準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3ヶ年平均）

準元利償還金・・・繰出金（一般会計等→企業会計）中、公営企業債への償還充当分、債務負担行為に基づく支出中、公債費に準ずるもの など



### ■算定方法

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{実質的な公債費 (元利償還金・準元利償還金等)} - \text{充当特定財源額・基準財政需要額算入額}}{\text{標準財政規模 (臨時財政対策債を含む)} - \text{基準財政需要額算入額}}$$

### ■熊本市の実質公債費比率

H30	$\frac{38,357}{191,297}$	-	$\frac{27,271}{20,545}$	=	6.49%	} 3ヶ年平均
H29	$\frac{39,296}{189,205}$	-	$\frac{26,294}{20,426}$	=	7.70%	
H28	$\frac{39,845}{161,218}$	-	$\frac{26,941}{20,358}$	=	9.16%	

↓

**早期健全化ライン（25%）を下回っている**